

経営資源を汎用利用する所得安定性の高い林畜複合経営

中山間地域では今後、限られた労働力のもとで、農林地を適切に管理し、かつ収益性の高い農林業経営モデルの構築が求められています。こうしたなかで原木椎茸と肉牛生産で構成される林畜複合経営は、経営の資源となる家族労働力や繁殖牛、里山の汎用利用が行われ、単一経営と比べて収益性が高く、生産物価格の変動に対して所得安定性の高いこと、家族労働力で約20haの里山の適切な保全管理が可能なことを明らかにしました。

☆ 技術の概要

- 事例経営は夫婦2人の労働力と繁殖牛18頭、里山20haの経営資源を用いて、肉牛と原木椎茸生産を行っています。肉牛部門の飼料生産と椎茸部門の下草刈作業は夏季に行われ、椎茸部門の原木伐採や種菌接種、収穫作業等は冬季に集中するなど、作業労働の季節分散が図られています。また、繁殖牛は里山に放牧し子牛生産を行うとともに、林床のネザサ等を採食しクヌギの育林にも寄与しています。これにより牛の管理作業が248時間、クヌギ林の下草管理作業が334時間節減されています。さらに、里山は肉牛部門への飼料供給と椎茸部門へのほだ木供給の場として汎用利用が行われています(図)。
- 林畜複合経営では、肉牛単一経営の約3分の1の繁殖牛頭数と、2割少ない労働時間でほぼ同額の所得が得られ、約19haの里山の保全管理が可能と試算されます。このように林畜複合経営は、里山を多く抱える中山間地域において、収益性が高く里山の保全管理や生物多様性の保護にも寄与する農林業経営モデルとして、今後の活用が期待されます。

(椎茸生産部門)	(経営資源の椎茸部門利用)	(経営資源)	(経営資源の肉牛部門利用)	(肉牛生産部門)
クヌギ林20ha (内所有林12ha) ほだ木4万本 乾燥椎茸出荷 1500kg 売上約450万円	原木伐採、玉切り、種菌接種、収穫、乾燥、ほだ場整備等: 11月~4月約1500時間(内雇用500時間) 下草刈等: 6月~10月約370時間	家族労働力の汎用利用	飼養管理: 通年約1400時間 飼料生産: 5月~10月約300時間	繁殖牛18頭 子牛出荷15頭 売上約600万円
	育林(12haのクヌギ林の下草管理) (除草作業: 334時間節減) 放牧によるクヌギへの施肥	繁殖牛の汎用利用 (クヌギ林放牧)	子牛生産17頭 (飼養管理: 248時間節減)	
	原木供給 (年間1ha伐採、ほだ木8000本)	副産物の相互利用	廃ほだ木の敷料利用	
		里山(クヌギ林)の汎用利用	下草(ネザサ等)の飼料利用 (飼料費: 約41万円節約)	
林畜複合経営の 効果 (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> ・肉牛単一経営と比べた投資額の低減 ・高い労働報酬額の確保 ・生産物価格の変動に対する収益の安定性 			

図 林畜複合経営における経営資源の汎用利用とその効果

☆ 活用面での留意点

詳細については、農研機構西日本農業研究センター農業経営グループ (TEL: 084-923-5327) にお問い合わせください。

(農研機構 西日本農業研究センター 営農生産体系研究領域 農業経営グループ 千田雅之)